

平成27年度学長裁量経費研究推進支援プロジェクト研究成果報告書

1. 研究の概要

プロジェクト名	戦前戦後の日本における器楽指導実践のための教員研修に関する研究		
プロジェクト期間	平成27年度		
申請代表者 (所属講座等)	山中和佳子 (音楽教育講座)	共同研究者 (所属講座等)	無し
取組方法・取組実績の概要	<p>本プロジェクト申請時の目的は、戦前から昭和40年代に焦点を当て、各年代の器楽指導の特徴と教師の指導力向上のために行われた教員研修の実態を明らかにし、日本の教育が求めてきた教師の音楽的専門性と器楽活動の教育的役割を指摘することである。</p> <p>プロジェクト申請時には、大きく分けて①音楽授業における器楽教育と②課外活動におけるブラスバンド活動に分けて学校音楽教育を捉え、その中で各年代における器楽指導の特徴を検討すると同時に、教師の指導力向上を目指した教員研修の実態を明らかにすることを主な研究内容とした。当初の計画では、器楽指導に重点を置くものであったが、本プロジェクトの調査に取り組むにあたって、まずは後者の教師の指導力向上を目指した教員研修の実態を明らかにする必要性を感じたことから、教員の指導力向上に関する取り組みの実態を先に明らかにし、さらにその中で器楽活動に関する内容がどのように取り扱われてきたのか、という順序で研究を進めることとした。また、年代を区切り、本プロジェクトでは教科としての音楽指導が広く定着し始めた昭和初期までに焦点を当てることとした。</p>		
研究成果の概要	<p>①大正11年に東京音楽学校卒業者で構成される同声会の役員や学校教師を中心に構成した日本音楽教育協会が設立された。この協会によって、教育音楽に関する諸問題の研究、音楽会講習会並に教育音楽の普及に関する施設、会報の発行、会員の互助、その他本会の目的に必要な事業が試みられ、戦前の日本の学校音楽教育に関する授業研究や技術の向上指導が促進されることとなった。また、昭和8年には、学校音楽研究会によって発行が開始された音楽教育専門雑誌『学校音楽』には、雑誌の毎号に唱歌科の授業案や教材解説が掲載されており、唱歌科授業の質的向上に取り組む姿勢が強く打ち出されていたことが見て取れた。</p> <p>②昭和5年頃には教員の音楽実技力を向上させるための講習会が各地で行われていたが、声楽やピアノを扱った内容がほとんどであった。研究会においても、鑑賞に関する内容や作曲の試みはなされていても、楽器を使った授業報告は見ることができなかった。さらに、音楽教育の問題を中心とした座談会の開催を願う現場からの要望を受けて、昭和9年末から各地で学校音楽教育に関する座談会が開催されるようになった。これら全体の議論内容を見ると、器楽の活動がテーマとして提示されることはなかったものの、各テーマの中で楽器を用いた活動について多少は議論が交わされていた様子が見られた。</p> <p>③大正末期から昭和初期にかけて、徐々に学校現場の教員によってブラスバンド活動の試みがなされるようになった。昭和8年には日本で初めてブラスバンドの専門雑誌『ブラスバンド』が発行され、これらの雑誌を活用し情報提供、情報共有、意見交換が行われた。しかし、誤った解釈で演奏している団体もあるという事実から、これを解消しさらなるブラスバンドや喇叭鼓隊の発展を目指して、昭和8年頃から地方及び東京で唱歌の指導方法とともにブラスバンドの活動も講習会や研修会で取り上げられるようになった。</p>		
外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法等について〔 <input type="checkbox"/> (該当事項) にチェック方願います。〕			
外部資金獲得申請 (予定)	<input checked="" type="checkbox"/> 科学研究費補助金 <input type="checkbox"/> 受託研究費 <input type="checkbox"/> その他 ()	研究成果の公表方法 (予定)	<input type="checkbox"/> 学会 (国内・国外): <input checked="" type="checkbox"/> 新聞・図書・雑誌論文等: <input type="checkbox"/> その他: